



周年、運航不能(機関故障等)による船舶海難が多く発生しています。
機関故障等による船舶海難を起こさないためにも、「**発航前検査**」をしっかりと実施していただき、海難の防止に努めましょう！

○船体部

1 船体外観の点検

- ・岸壁、栈橋、甲板上から確認できる範囲で亀裂などがあるか、舵板やプロペラにロープや網が絡んでいないか確認しましょう。

2 ステアリングの点検(船内機)

- ・ステアリングを左右に一杯回して状態を確認しましょう。
異音を感じたら、ステアリングと推進器(プロペラ)の間のケーブルやワイヤーが錆びついている可能性があります。

3 船外機の点検

- ・チルト(船外機上下)機能が正常であるか、冷却水が排出されているか、冷却水の排出量が普段と変化がないか確認しましょう。冷却水の排出量が普段より少なければ、インペラの破損等の可能性があります。

4 スロットル・クラッチレバーの点検

- ・前進、後進がスムーズに動くか、エンジンを起動する前に確認しましょう。
スムーズに動かない場合、連結ワイヤーが錆びている可能性があります。

5 船倉内の点検

- ・キャビンや船倉内、機関室に水が溜まっていないか確認しましょう。

○機関部

1 燃料油の点検

- ・帰りの航程も勘案し、燃料タンクの油量が十分にあるか確認しましょう。
万が一のために「予備タンク」を備えておくことも1つの手段です。

2 燃料・オイルフィルターの点検

- ・フィルターに目詰まりがないか確認し、フィルター内に異物があれば異物の除去を行いましょう。また、フィルターの交換については定期的に行いましょう。

3 エンジン各部の点検

- ・配管(ゴムホース)やVベルトにひび割れ、たわみ、劣化等がないか確認し、異常があれば、メーカーや業者に相談し、早めに交換しましょう。

4 エンジンオイル(潤滑油)の点検

- ・エンジンオイル(潤滑油)の残量の確認と性状(色、臭い、手触り)の確認を行いましょう。手触りに異物感がある場合は金属粉の混入が考えられ、部品等が摩耗している可能性があるため、メーカーや業者に相談しましょう。

5 バッテリーの点検

- ・電圧、端子、ケーブルを確認し、端子に錆、ケーブルに錆、劣化がないか確認しましょう。

事故事例

令和8年5月、プレジャーボートによる機関故障海難が発生しています。

こちらの事案につきましては、航行中にエンジンの出力低下が起こり、そのままエンジンが停止し、運航不能となったもので、エンジン停止後、同船船長が機関室内を確認すると、冷却海水ホースのゴム部分が溶けていたことから、冷却海水ホースの損傷による主機関のオーバーヒートが原因と考えられます。